

近江八幡市地域公共交通計画（概要版）

計画の目的

本市のまちづくり計画との整合を図りながら、JR琵琶湖線、近江鉄道線、路線バスといった幹線公共交通と、幹線公共交通を補完する公共交通網である市民バス（愛称：あかこんバス）を統合的に整理・整備し、近江八幡市における持続可能な公共交通体系を構築することを目的とします。

計画の位置付け

滋賀県等の計画を勘案しつつ、本市の上位計画に準拠し、その他関連する計画と整合を図りながら計画を策定します。

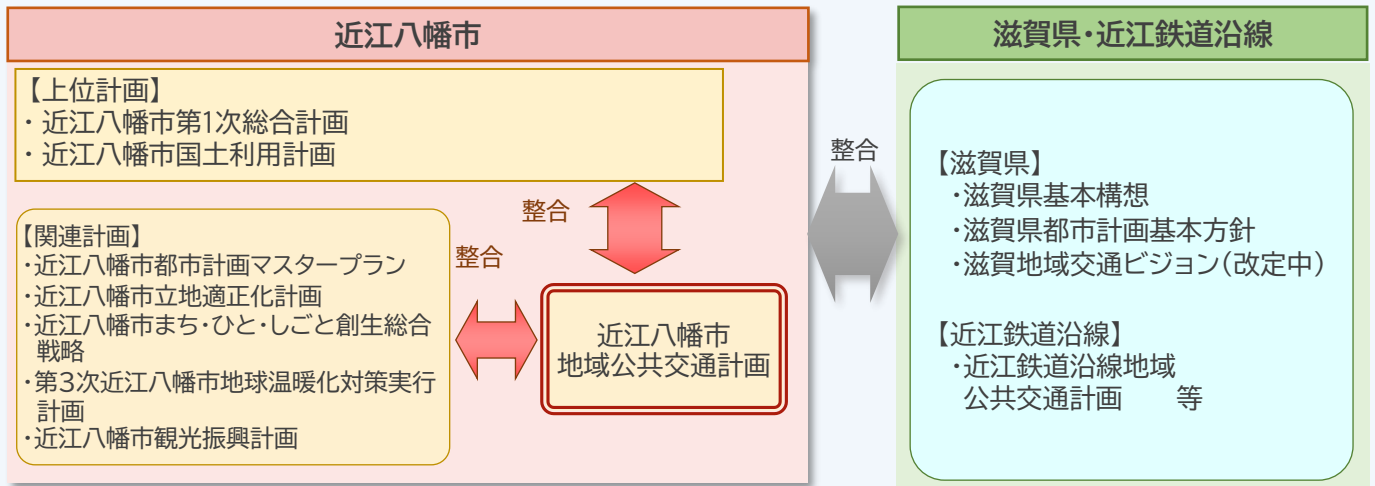


図 計画の位置づけ

計画の期間

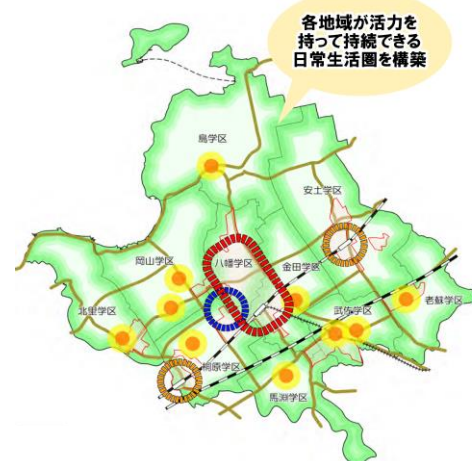
本計画の計画期間は、2023（令和5）年度～2028（令和10）年度までのとしますが、必要に応じて見直しを行います。

基本理念

全ての市民が将来にわたって
安心して暮らし続けられる、
地域特性に応じた持続可能な

地域公共交通ネットワークの維持・充実

- 都市拠点
- 地域拠点
- 医療福祉拠点
- 日常生活圏
- 生活拠点
- 市街化区域
- 将来道路網
- 近江鉄道
- JR
- 航路(沖島通船)



広域連携軸	都市・地域拠点間の連携を支える交通ネットワーク	JR琵琶湖線
地域連携軸	市内での交流を促進する交通ネットワーク	近江鉄道八日市線

図 本市の目指す都市構造

地域公共交通を取り巻く課題と基本方針

課題

1 ネットワーク型コンパクトシティの交通軸の機能強化

- ・ 持続可能な都市構造として、「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成が必要。

2 地域に合った移動手段の確保

- ・ 社会情勢の変化に合った公共交通網の見直しや少量輸送ニーズ等、利用者のボリュームや潜在ニーズに応じ、地域に合った移動手段の確保が必要。

3 交通結節点・拠点の機能強化

- ・ ネットワーク型コンパクトシティの実現と、安全で快適な移動環境を確保するために、交通結節点となる駅前広場等の拠点の機能強化が必要。
- ・ 新たなひとの流れの創出・交流拡大に向け市内の回遊性を高めるために、鉄道⇄バス、バス⇄バス等の乗換え利便性の向上が必要。

4 公共交通サービス水準の維持・向上

- ・ 市内の公共交通の持続性を確保するために、公共交通のサービス水準の維持・向上や、バスの利便性向上に向けた取組が必要。

5 地域の輸送資源の活用

- ・ 公共交通の持続性を確保するには、ドライバーの確保や、ドライバーが不足していても公共交通を維持できる取組が必要。
- ・ 新技術・IT技術を活用した公共交通の利便性向上や、自家用車両や企業・団体等が保有する車両等の地域の輸送資源を総動員する取組等の推進が必要。

6 日常生活を支える交通手段の確保

- ・ 高齢化の進展への備えや、市民が通院や買物等の日常生活を安心して行えるよう、より地域と生活に密着した形で高齢者の買い物、通院等の利便性の確保が必要。

7 地域資源を活かした新しいひとの流れの創出

- ・ 周遊観光を促進するために、公共交通を使った移動手段の確保が必要。
- ・ 良好な交流が進むよう、市民の暮らしと観光客の利便性について調和を図ることが必要。
- ・ 本市の地域資源を有効活用し、周遊観光の促進を図るために、旧市街地や安土城跡・沖島等、主な観光地を鉄道・バス・航路等の市内回遊性の向上と、公共交通での往来を促進する取組が必要。

8 公共交通の利用促進・新たな利用者の開拓

- ・ 既存公共交通利用者の利用頻度の向上や、移動手段を持っていない、又は、公共交通の利用勝手が悪いために駅などへの送迎を家族等に頼っている通勤・通学者の公共交通の利用促進が必要。
- ・ “自動車と公共交通のかしこい使い分け”を促進することが必要。
- ・ 公共交通維持に向けて、運転免許証を持たない学生や返納した高齢者等、新たな公共交通利用者の開拓が必要。

9 スムーズに公共交通を使い始めることができるサービスの提供

- ・ 将来も安心して外出・移動ができるよう、スムーズに公共交通を使い始めることができるサービスの提供が必要

基本方針

基本方針 1 まちづくりの方針を踏まえた持続可能な公共交通ネットワークの維持・充実

基本方針 2 将来にわたって安心して暮らし続けることができる移動環境の整備

基本方針 3 新しいひとの流れを創出する公共交通サービスの整備

基本目標・施策・具体の事業

目標1 広域連携軸・地域連携軸となる公共交通ネットワークの機能維持

施策1-1 鉄道のサービス機能・水準の維持

- ・ネットワーク型コンパクトシティの広域連携軸（JR琵琶湖線）、地域連携軸（近江鉄道八日市線）に対応したまちづくり
- ・近江鉄道線の収支均衡に向けて必要な取組の実施

施策1-2 航路のサービス機能・水準の維持

- ・湖上交通と陸上交通の連携を図るための利便性向上策の検討
- ・ピワイチとの連携の可能性の研究

目標2 幹線・地域内公共交通ネットワークの維持・連携

施策2-1 あかこんバスの運行

- ・あかこんバスの継続的な運行
- ・あかこんバスの運行サービスの改善に向けた検討
- ・安土コミュニティエリア整備に併せたルートの見直し検討

施策2-2 幹線・地域内フィーダー系統路線の運行

- ・幹線・地域内フィーダー系統の補助金活用による継続的な運行

目標3 交通結節点の機能強化

施策3-1 主要バス停留所の待合環境整備

- ・市庁舎の建替えに伴う待合場所の確保
- ・近江八幡駅の改修に併せたバス待ち環境整備等の検討

施策3-2 乗換え・乗継ぎ環境の整備

- ・公共交通や近江八幡駅の案内等情報発信の充実
- ・市庁舎の建替え時に、バリアフリーに配慮した乗換え・乗継ぎしやすい環境整備
- ・近江八幡駅の改修に併せたバリアフリーに配慮した環境整備等の検討

施策2-2 幹線・地域内フィーダー系統路線の運行

- ・近江八幡駅周辺の自転車駐車場の認知度向上・利用促進
- ・必要に応じた自転車駐車場の整備等について検討

目標4 日常生活を支える3次交通の充実

施策4-1 日常生活を支える新たな交通の検討

- ・日常生活を支える互助輸送、デマンド交通、相乗りタクシー等の新たな交通について検討・近江鉄道線の収支均衡に向けて必要な取組の実施

施策4-2 バスではカバーしきれない移動ニーズへの対応方法の研究

- ・超小型モビリティ（シェアリングサービス含む）等の新技術活用等の可能性についての研究

目標5 周遊観光に資する公共交通サービスの検討

施策5-1 観光2次交通の工夫と充実

- ・繁忙期における郊外駐車場の設置についての継続的な取組及び新たな設置の検討
- ・市内観光拠点間の移動を円滑にする公共交通の工夫についての検討
- ・自転車等の環境に配慮した移動手段の確保

施策5-2 公共交通で行ける観光モデルルートの構築に向けた働きかけ

- ・公共交通を利用した観光周遊を促進するための情報発信への働きかけ
- ・公共交通で行ける観光モデルルートの構築への働きかけ

施策5-3 乗捨てできるレンタサイクル等を活用した周遊促進の検討

- ・レンタサイクルの相互返却サービスの検討
- ・レンタサイクルの借りた場所以外での返却場所設置について検討

目標6 公共交通の利用促進

施策6-1 潜在的な利用者に向けた利用のきっかけとなるサービスの検討

- ・お得な乗車券の周知等、利用促進に向けた取組について検討

施策6-2 公共交通の情報発信及び高度化の検討

- ・一体的に取りまとめた市内公共交通の情報をホームページへ掲載
- ・時刻表検索、スマートフォンでの運行状況の見える化等、IT技術を活用した情報発信方法の高度化についての検討

施策6-3 モビリティマネジメント

- ・滋賀県で実施している、公共交通の利用促進に向けた小学校での出前講座の促進
- ・公共交通の利用促進を図るためのモビリティマネジメント※の検討

評価指標・数値目標

課題

区分	評価指標		現状値		目標値 2028 (令和10) 年度	使用データ	評価 の時期
			値	時期 (年度)			
①公共交通の満足度	公共交通の便が良くないと感じる割合		25.3%	2018 (平成30)	20.0%	総合計画 (改定時) 市民 アンケート	2028 (令和10)
②公共交通の利用者数	あかこんバス		93千人/年度	2020 (令和2)	120千人/年度	市調査結果	毎年
	近江鉄道バス※1		4,191千人/年度		4,875千人/年度		
	近江鉄道線		854千人/年度		1,087千人/年度	市統計書	
	JR線		6,429千人/年度		8,236千人/年度		
	航路		77千人/年度		96千人/年度	運航事業者 提供データ	
③行政負担	利用者 1人あたりの 行政負担額	近江鉄道バス	122円	2021 (令和3)	122円	市調査結果	毎年
		あかこんバス※2	616円	2021 (令和3)	515円	市調査結果	毎年
	収支率	近江鉄道バス	45.7%	2021 (令和3)	45.7%	運行事業者 提供データ	毎年
		あかこんバス	27.1%	2021 (令和3)	29.1%	市調査結果	毎年
④新しい人の流れ	自由目的の 自動車 (家族の送迎)	月2日以上	51%	2022 (令和4)	40%	本計画策定時 の 市民 アンケート	2028 (令和10)
	公共交通に係る 市ホームページへの アクセス数		17,603件	2022 (令和4)	21,800件	ホームページ アクセス カウント	毎年

※1:近江八幡管内を運行するあやめ営業所の数値

※2:あかこんバス利用者1人あたりの行政負担額は、サービス向上に伴って運行費用が増大する場合は目標値を検討のうえ再設定する。

※3:サービスが改善したらバスを利用したいと回答した方のバスの総合的な満足度